

きっかけは東日本大震災

末永:震災後1週間ほど東京に避難していましたが、いわき市にとどまった親戚や友人から物資が無いとの知らせがありました。当時は東京でも物が買にくい状態だったので、「明日1時から6時までの間、高円寺駅前に立っているの、物資のご協力をお願いします」とツイッターで呼びかけました。すると、当日わずか半日で、2トントラック1台分の物資が集まりました。それをいわき市に持ち帰ったのが始まりです。

小名浜のNPO法人ザ・ピープルさんに倉庫をお借りし、ツイッターの呼びかけに集まった地元の若者15人ほどで物資配布の活動を始めました。また近所や避難所の方むけに炊き出しを行い、2回目の炊き出しの時、手伝いに来てくれた宮本さんと出会いました。

宮本:私は東京都在住で、震災後はタイミングをみていわき市の実家に戻ろうと考えていました。その頃、以前雑誌で見たエシカフェ(株式会社ethicafe)の末永さんをツイッターで見つけ、支援活動をしていることを知り、4月上旬の炊き出しに参加しました。炊き出しや物資配布をしながら、みんなで「これからどうなるのだろう?」と話をしていました。

末永:全然悲観的な話ではなく、「何か新しいことを始めるなら今しかないね」と話していました。

「MUSUBU」の誕生

末永:毎日物資配布をしていましたが、4月中旬にスーパーが再開したので支援物資の活動を終えました。

直後に、ザ・ピープルさんから小名浜地区のボランティアセンター立ち上げのお話を頂き、これを機に「MUSUBU」を結成しました。

宮本:ボランティアセンターの運営を行いながらも、MUSUBU独自の活動も始めました。当初から「いわき市から世界にワクワクを発信したい」と盛り上がっていたので、団体名を外国の人でも覚えやすい「MUSUBU」という一語にしました。ロゴは、同世代の人たちにも興味を持ってもらえるようなデザインにしました。

小名浜地区沿岸は電気の復旧が遅く、お店も閉まっていて、まちの動きが止まっているように感じました。その頃、何かを楽しんではいけなような雰囲気があったのですが、そろそろ自分たちも楽しめるイベントをやりたいと思いました。そこで、過去にミュージックビデオを薄磯海岸で撮影するなど、いわき市になじみのあった「くるり」さんの音楽ライブを2011年6月23日に小名浜の潮目交流館で開催しました。約200名もの人が来てくださり、「参加できて本当によかった」という嬉しい声も聞けて、開催して良かったと思いました。

金髪にもしました(笑)

宮本:その後も、月に1回くらいのペースでスポーツや音楽、書道などジャンルを問わず様々なプロジェクトを開催しました。いわき市の郷土料理「ウニの貝焼き」を作るイベントもやりました。2012年の夏には、

地域団体



特定非営利活動法人 ザ・ピープル

<http://iwaki-j.com/people/>

1990年に数人の主婦たちが設立し、古着のリサイクルや障害者の自立支援、海外教育の支援などを行ってきた。震災直後に小名浜地区災害ボランティアセンターを開所し、災害支援を行った。その後、被災者の自立した生活を再建するための復興支援を続けている。さらに、被災地での農業支援や、雇用確保のため、「いわきオーガニックコットンプロジェクト」をスタートさせた。



特定非営利活動法人 中之作プロジェクト

<http://toyorder.p1.bindsite.jp/nakanosaku/>

中之作・江名地区に残る価値ある多くの民家や町並みが、津波被害により消失されつつあった状況を危惧し、美しい町並みを残すべく、建築関係者を中心に活動を開始した。現在、中之作に建つ築200年の民家を地域住民参加型のワークショップを行いながら修復、町のシンボルとして活用する事業をメインに活動中。また、震災で傷んだ市内の民家について相談も受けている。